

研究課題：成人がん患者と小児がん患者の家族に対する望ましい心理社会的支援のあり方に関する研究

課題番号：H20ーがん臨床ー若手ー023

研究代表者：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 大学院医学系研究科  
生体機能補完医学講座 大学院人間科学研究科人間行動学講座 平井 啓

## 1. 本年度の研究成果

本研究の課題は、成人がん患者と小児がん患者の家族を対象とした面接調査と質問紙調査を行い、意思決定場面での望ましい心理社会的支援のあり方、QOLの実態を明らかにし、がん患者と家族への支援ツールを作成することである。本年度は、ホスピス・緩和ケアを利用した成人がん患者の遺族を対象とした3つのテーマについての面接調査を実施、小児がん患者の家族については、医療者、遺族を対象とした面接調査の実施と2つの研究計画の作成を行い、乳癌患者とその子どもとのコミュニケーションに関するインタビュー調査を実施した。

### A) ホスピス・緩和ケアへの移行期のがん患者の家族に関する研究

ホスピス・緩和ケアへの移行期のがん患者の家族に対する望ましいケアのあり方を探索することを目的に、関東と関西のホスピス・緩和ケア病棟で家族を亡くした遺族 60 名を対象に面接調査を実施した。分析は、移行期の家族への望ましいケアが難しいとされる、「余命の告知」・「療養場所の変更」・「積極的治療の中断/中止」の3テーマを設定して行った。

1) 余命の告知: 家族および患者に対する告知の時期や内容の実態を探索するとともに、意思決定の際に考慮した要因および告知の結果生じたメリット・デメリット、現在の評価についてカテゴリーを作成した。理由、結果とともに、遺族自身が余命を聞いた/聞かなかった、患者に余命を伝えた/伝えなかった、という状況ごとにカテゴリーが得られた。

2) 療養場所の変更: 緩和ケア病棟への入院検討時の家族のつらさの詳細と、家族が求めるケア内容についてのカテゴリーを作成した。つらさの詳細においては、緩和ケア病棟の利用検討期間、入院予約から実際に入院するまでの期間、入院後の期間という状況ごとにカテゴリーが得られた。

3) 積極的治療の中断/中止: 遺族の後悔に影響する要因を探索することを目的に、意志決定に対する遺族の気持ちと、その気持ちに至った要因についてのカテゴリーを作成した。当時の患者の状況、家族の状況、医療者との関係性、意志決定の選択肢、意志決定の責任の所在、遺族の認知的対処、結果として生じたことの7カテゴリーが得られた。

### D) がん患者の家族の QOL の概念化に関する研究

終末期がん患者の家族ケアの目標を明確化することを目的に、関東のホスピス・緩和ケア病棟で家族を亡くした遺族 32 名および関東と関西において在宅ホスピスを利用して家族を亡くした遺族 7 名、また関東のホスピス・緩和ケア病棟に入院中の患者の家族 10 名を対象とし、がん患者の家族の QOL の概念化に関する面接調査を実施した。面接は既に全例終了し、家族と患者との望ましい療養生活を構成する要素に関するカテゴリーを作成中である。

### E) 治療終了後の小児がん患者の親の QOL に関する研究

治療終了後の小児がん患者の親の心理的苦痛と子育てにおける困難を明らかにするための、研究計画書を作成した。小児がん患者を対象とした研究との共同研究を計画し、治療終了後の小児がん患者の親子を対象とする。現在、倫理委員会の承認を得て予備調査の実施と本調査の実施を計画している。

#### F) 骨髄移植患者の同胞の意思決定に関する研究

小児造血幹細胞移植患者の同胞ドナーの心理的過程を多角的に検討することを目的に、調査の研究計画を作成した。対象には、同胞ドナーの他に、同胞ドナーの家族や小児造血幹細胞移植患者の親ドナーも含めて調査を実施する。現在、倫理委員会の承認を得て対象者のリクルーティングを行っている。

#### G) 終末期における小児がん患者の家族の意思決定に関する研究

難治性小児がん患児の家族にとって支援の必要な課題を探索することを目的に、小児がん治療に従事する医療者、および遺族を対象としたインタビュー調査を、小児がんで子どもを亡くした遺族 4 名 (応諾率 26%)、医師 6 名、看護師 3 名を対象に行った。

#### H) 働き盛り世代の乳癌患者と子どもとの関係に関する研究

外科治療を受けた乳癌患者 18 名を対象に、面接調査を行った。母親の乳癌が子どもに与える影響と子どもの存在と関係が患者の療養生活に与える影響が明らかになった。また他の働き世代のがん患者については医療者を対象とした予備的面接調査を実施した。

## 2. 研究成果の意義及び今後の発展性

ホスピス・緩和ケアを利用した成人がん患者の遺族を対象とした3つのテーマについての面接調査と小児がん患者を対象とした面接調査に関しては、患者にケアを提供すると同時にケアを受ける立場でもある家族への望ましいケアのあり方についての遺族や家族の視点からの詳細な資料が得られたことは意義がある。来年度は、面接調査の継続ならびに、質的解析を行い、研究成果について論文化を行う。また今後、移行期の家族への意思決定支援として、患者・家族、そして医療者に配布できる Web ページやパンフレット、心理的支援プログラムなどの支援プログラムの開発につなげていく予定である。また、働き盛り世代である乳癌患者とその子どもとの関係についてもより詳細な解析を行う予定であるが、他の働き盛り世代のがん患者について予備的な面接調査を実施し、研究課題の特定と研究計画の策定を行う。

## 3. 倫理面への配慮

本研究では、研究計画を対象施設の倫理委員会に申請し、承認を得たうえで実施している。研究目的と計画についてのインフォームドコンセントと個人情報の取り扱いに注意して研究を実施している。特に遺族を対象としたインタビュー調査を実施するにあたり、遺族の連絡先の管理を徹底する、研究の趣旨や方法に関するインフォームドコンセントを電話連絡時と調査開始時の 2 度行うなどして、遺族の心情への配慮を行っている。また医療者を対象とした調査の際も、事前および当日に趣旨説明を実施した。

## 4. 発表論文

1) Hirai K, Komura K, Tokoro A, Kuromaru, T, Ohshima A, Ito T, et al: Psychological and

behavioral mechanisms influencing the use of complementary and alternative medicine (CAM) in cancer patients. *Ann Oncol* 19:49-55, 2008

- 2) Miyashita M, Morita T, Sato K, Hirai K, et al: Factors contributing to evaluation of a good death from the bereaved family member's perspective. *Psychooncology* 17:612-20, 2008
- 3) Sanjo M, Miyashita M, Morita T, Hirai K, et al: Perceptions of Specialized Inpatient Palliative Care: A Population-Based Survey in Japan. *J Pain Symptom Manage*, 2008
- 4) Shiozaki M, Hirai K, Dohke R, Morita T, Miyashita M, et al: Measuring the regret of bereaved family members regarding the decision to admit cancer patients to palliative care units. *Psychooncology* 17:926-31, 2008

## 5. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属研究機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属研究機関における職名
平井 啓	研究の総括, 治療中止時の患者と家族の意思決定に関する研究	大阪大学大学院人間科学研究科前期課程 平成 9 年修了, 博士(人間科学), 健康心理学, サイコオンコロジー	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター/大学院医学系研究科生体機能補完医学講座/人間科学研究科人間行動学講座	助教
伊藤壽記	がん患者と家族への補完医療のあり方に関する研究	大阪大学医学部昭和 52 年卒, 医科学博士, 消化器外科学, 補完医療	大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座	教授
森田達也	がん患者の家族の治療法選択・治療中止の意思決定に関する研究	京都大学医学部平成 4 年卒, 医学士, 緩和医療学	聖隷三方原病院緩和和支持治療科(聖隷三方原病院)	部長
宮下光令	がん患者の家族の QOL の概念化に関する研究	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程平成 9 年卒, 博士(保健学), 緩和ケア看護学	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻成人看護学/緩和ケア看護学分野	講師
盛武 浩	治療終了後の小児がん患者の親の QOL に関する研究	宮崎医科大学大学院医学研究科博士課程平成 13 年修了, 医学博士, 小児科学	宮崎大学医学部生殖発達医学講座小児科学分野	講師
尾形明子	小児がん患者の家族の心理的苦痛の解明と家族支援方法の開発に関する研究	広島大学大学院教育学研究科平成 19 年修了, 博士(心理学), 臨床心理学, サイコオンコロジー	宮崎大学教育文化学部	講師
太田秀明	骨髄移植患者の同胞の意思決定に関する研究	広島大学医学部昭和 63 年卒, 医学博士, 小児腫瘍学	大阪大学大学院医学系研究科小児発達医学(小児科学)	講師
天野功二	終末期における小児がん患者の家族の意思決定に関する研究	岐阜大学医学部平成元年卒, 医学士, 小児科学, 緩和医療学	聖隷三方原病院緩和和支持治療科(聖隷三方原病院)	部長